

## Indicators Update

2012年4月19日 全11頁

# 3月貿易統計～輸出が6ヶ月振りのプラス

経済調査部 エコノミスト 長内 智

2011年度の貿易収支は3年振りの赤字に転落

### [要約]

- **【概況】2ヶ月振りの貿易赤字**：2012年3月の貿易統計は、輸出が大きく伸びた一方で、輸入の増勢が続き、貿易収支の赤字基調が継続するなど先行き不透明感が幾分残る内容であった。3月の輸出金額は前年比+5.9%と市場コンセンサスを上回り、6ヶ月振りのプラスとなった。3月の輸入金額は、資源価格の高止まりと原子力発電所事故・稼働停止問題に伴う代替燃料の需要増加によって、前年比+10.5%と27ヶ月連続で増加した。この結果、貿易収支は▲826億円と2ヶ月振りの赤字となった。2011年度の貿易収支は大震災や海外経済減速の影響によって▲4兆4,101億円となり、2008年度以来3年振りの赤字に転落した。
- **【地域・品目別動向(名目)】輸送用機器が2ヶ月連続のプラス**：主要品目別にみると、輸出が増加した業種では、「輸送用機器」が前年比+25.4%と2ヶ月連続で増加し、プラス幅も前月(同+5.4%)から大きく拡大した点が注目される。この背景として、「輸送用機器」は米国向けが好調なことに加えて、ASEAN向けが大幅に伸びたことが指摘できる。
- **【今後の見通し】輸出は横ばい圏から徐々に回復軌道へ**：輸出は、横ばい圏での動きがしばらく継続すると考えているものの、新興国を中心とする海外経済の成長が徐々に上向くにつれて、回復軌道に復していくと予想する。財政問題を抱える欧州の実体経済は緊縮財政政策などが重石となって当面停滞することが見込まれる一方、米国経済は今後も底堅く推移するとみられ、新興国経済は政策当局による金融緩和スタンスの強化が支えとなり緩やかに持ち直しに向かうと想定している。

## 【概況】 2ヶ月振りの貿易赤字

### 貿易収支の赤字基調が継続

2012年3月の貿易統計は、輸出が大きく伸びた一方で、輸入の増勢が続き、貿易収支の赤字基調が継続するなど先行き不透明感が幾分残る内容であった。3月の輸出金額は前年比+5.9%と市場コンセンサス（同+0.2%）を上回り、6ヶ月振りのプラスとなった。今回、輸出が前年比でプラスになったのは、タイの大洪水後の復元の動きによって ASEAN 向け輸出が大きく伸びたことや、東日本大震災の影響で前年の3月下旬の輸出金額が急速に落ち込んだ反動増が押し上げに作用したことによる。なお、3月上旬の前年比は▲8.4%、中旬は同▲6.2%、下旬は同+32.8%。輸出金額の基調を捉えるために季節調整値（3ヶ月移動平均）をみると、前月比+1.3%と2ヶ月連続のプラスとなったことが確認できる。1-3月期の輸出金額（季節調整値）は、前四半期比+2.2%と2四半期振りのプラスに転じた。3月の輸入金額は、資源価格の高止まりと原子力発電所事故・稼働停止問題に伴う代替燃料の需要増加によって、前年比+10.5%と27ヶ月連続で増加した。この結果、貿易収支は▲826億円と2ヶ月振りの赤字となった。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）～輸出が6ヶ月振りのプラス

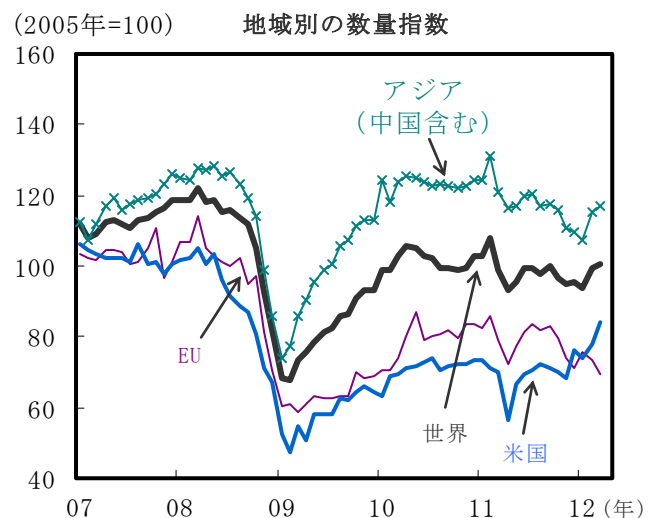
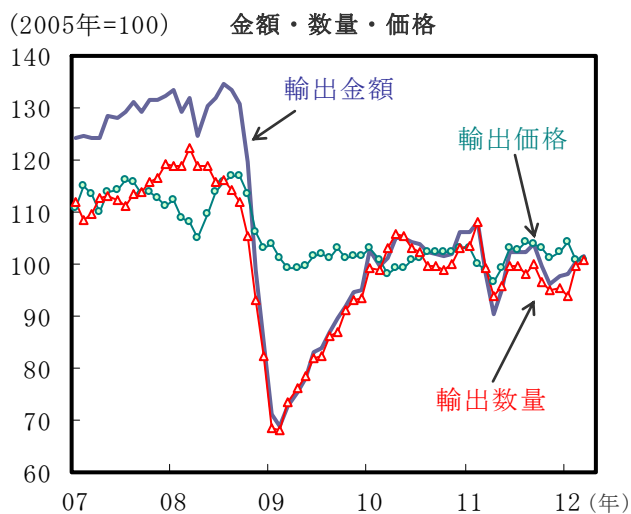
	2011年										2012年		3月
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
輸出金額	▲12.4	▲10.3	▲1.6	▲3.3	2.8	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.2	▲2.7	5.9	
コンセンサス												0.2	
DIR予想												▲2.2	
輸入金額	9.2	12.4	9.9	9.9	19.2	12.2	17.9	11.5	8.2	9.6	9.2	10.5	
輸出数量	▲11.5	▲10.5	▲2.6	▲5.2	0.9	1.4	▲4.0	▲4.4	▲6.6	▲10.1	▲3.8	3.7	
価格	▲1.1	0.2	1.0	2.0	1.9	0.9	0.2	▲0.1	▲1.5	1.0	1.2	2.1	
輸入数量	1.3	5.5	1.7	▲2.6	6.1	1.0	6.0	▲1.0	▲0.7	3.1	3.2	3.1	
価格	7.8	6.5	8.0	12.8	12.4	11.1	11.3	12.5	8.9	6.3	5.8	7.2	
貿易収支	▲4,777	▲8,607	645	697	▲7,775	2,888	▲2,830	▲6,912	▲2,083	▲14,815	294	▲826	

(注1) 貿易収支は億円。

(注2) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表2：輸出金額・数量・価格と地域別輸出数量の推移（季節調整値）～米国向け的好調が続く



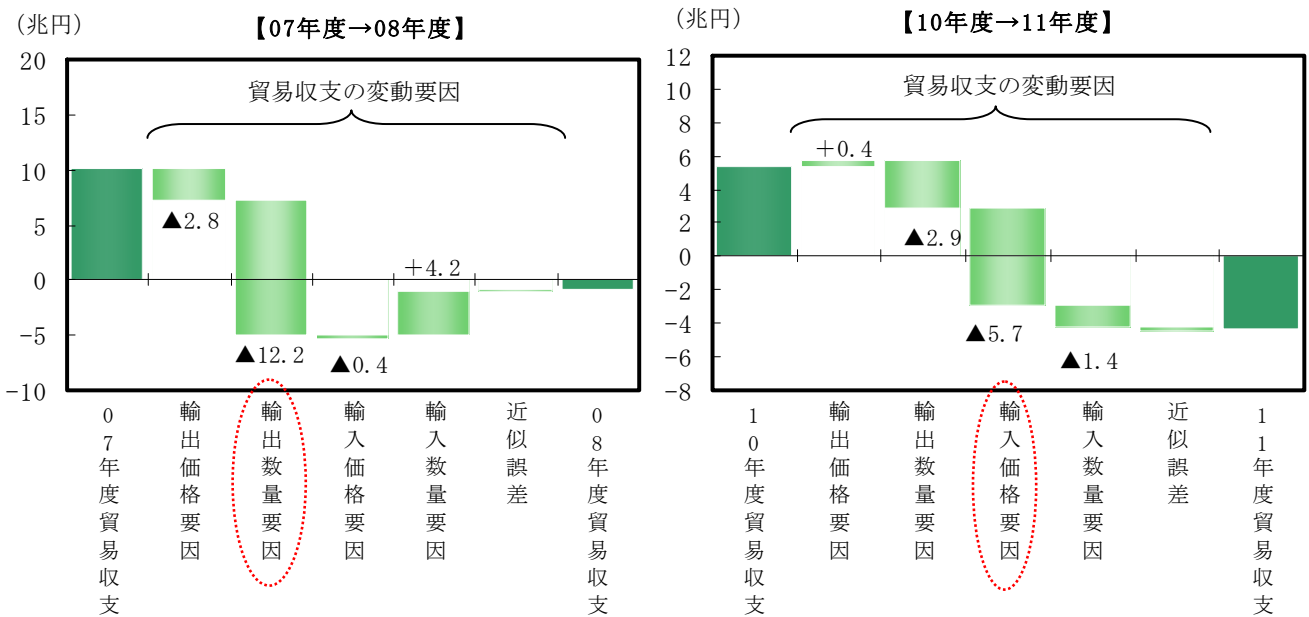
(注) 季節調整は「輸出金額」が財務省、他は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

2011年度は3年振りの貿易赤字

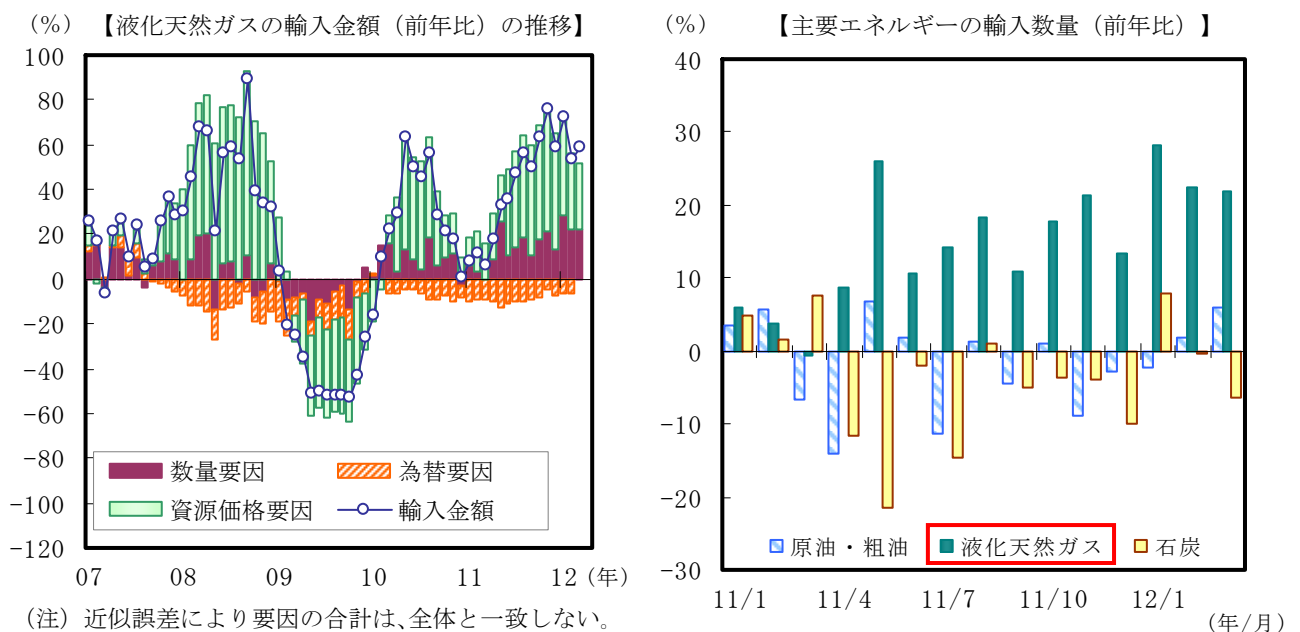
2011年度の貿易収支は大震災や海外経済減速の影響によって▲4兆4,101億円となり、2008年度以来3年振りの赤字に転落した。2008年度に貿易赤字となった時の変動要因（大和総研試算）をみると、当時はリーマン・ショックによって海外需要が大幅に落ち込んだことが響き、輸出数量要因だけで12.2兆円も貿易収支を減少させた（図表3）。2011年度は、震災後のサプライチェーンの寸断に伴う輸出の落ち込みや海外経済減速などの影響で、輸出数量要因が▲2.9兆円とマイナス寄与が大きくなったことに加えて、資源高を背景とする輸入価格要因が▲5.7兆円と全体を押し下げた。他方、輸入数量要因は▲1.4兆円とマイナス幅はそれ程大きくなく、液化天然ガスなど一部の代替燃料の輸入量が増加した影響は限定的だったことがわかる。

図表3：貿易収支（前年度差）の要因分解：リーマン・ショック後と東日本大震災後



(注) 輸入価格（数量）要因は逆符号。輸入価格（数量）がプラスのとき、輸入価格（数量）要因はマイナスとなる。  
 (出所) 財務省統計より大和総研作成

図表4：液化天然ガスの輸入金額と主要エネルギーの輸入数量（前年比）



(注) 近似誤差により要因の合計は、全体と一致しない。  
 (出所) 財務省統計より大和総研作成

(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 【地域・品目別動向(名目)】 輸送用機器が2ヶ月連続のプラス

### 輸送用機器は堅調に推移

主要品目別にみると、輸出が増加した業種では、「輸送用機器」が前年比+25.4%と2ヶ月連続で増加し、プラス幅も前月(同+5.4%)から大きく拡大した点が注目される。この背景として、「輸送用機器」は米国向けが好調なことに加えて、ASEAN向けが大幅に伸びたことが指摘できる。大震災の影響で前年の3月下旬の水準が低かった反動増の影響については割り引いて評価する必要があるものの、「輸送用機器」の輸出は堅調に推移していると評価できる。「電気機器」は世界的なIT関連製品の需要鈍化が長引いているが、生産と在庫調整が進展してきたことや米国向けとASEAN向けが大きく伸びたことで、前年比+6.1%と13ヶ月振りのプラスとなった。ただし、他方、アジア地域で景気減速感が強まっていることや欧州向けの低迷を受けて、「化学製品」が前年比▲8.3%と7ヶ月連続で減少した。輸入については、代替燃料の需要増加と価格高止まりを背景に、「液化天然ガス」の輸入金額が前年比+58.7%、輸入数量が同+21.8%と揃って大幅に増加した。

### 米国向けが好調を維持

主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+23.9%(2月、同+11.9%)、EU向けが同▲9.7%(2月、同▲10.7%)、アジア向けが同+0.5%(2月、同▲6.6%)となった。経済の緩やかな回復が続く米国向け輸出は5ヶ月連続のプラスと堅調に推移した。財政問題を抱えるEU向け輸出は6ヶ月連続のマイナスと低迷が続く。アジア向けは、タイの大洪水後の復旧需要によってASEAN向け輸出が前年比+21.8%と大きく伸びたことで6ヶ月振りのプラスとなった。

## 【今後の見通し】 輸出は横ばい圏から徐々に回復軌道へ

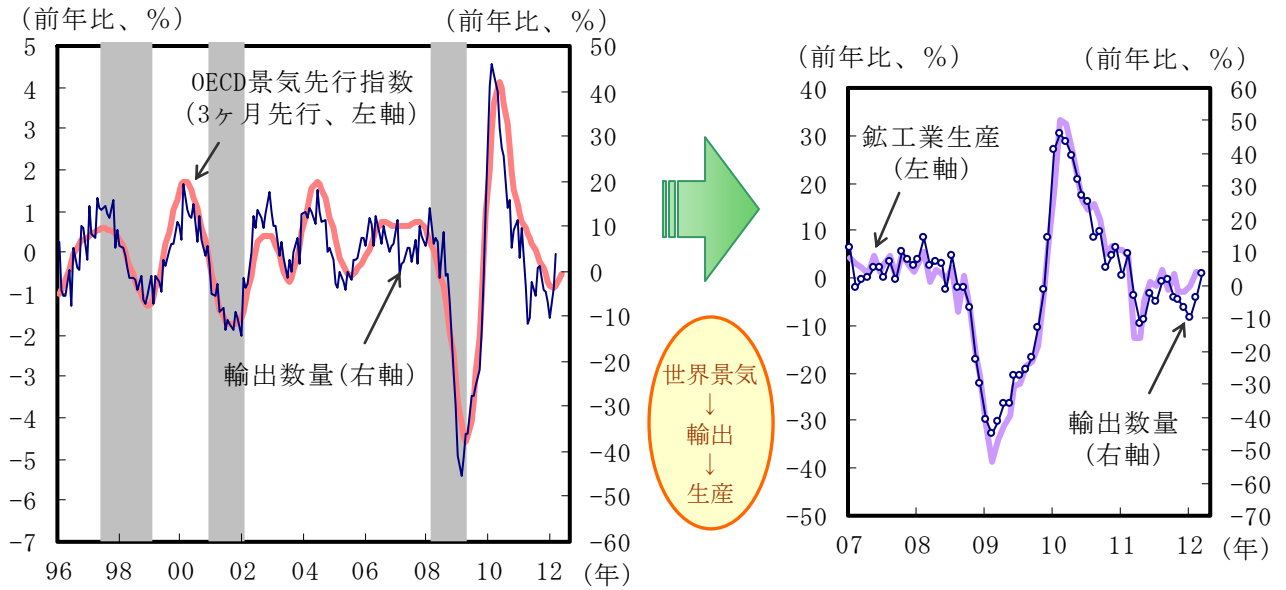
### 新興国を中心とする海外経済の持ち直しが焦点

輸出は、横ばい圏での動きがしばらく継続すると考えているものの、新興国を中心とする海外経済の成長が徐々に上向くにつれて、回復軌道に復していくと予想する。財政問題を抱える欧州の実体経済は緊縮財政政策などが重石となって当面停滞することが見込まれる一方、米国経済は今後も底堅く推移するとみられ、新興国経済は政策当局による金融緩和とスタンスの強化が支えとなり緩やかに持ち直しに向かうと想定している。ただし、2012年3月の日銀短観において、海外製商品需給判断DI(製造業)の改善が僅かなものに留まったことから窺えるように、企業は依然として海外需要の先行きに対して慎重に見ている点には留意が必要である(図表6)。なお、4-5月の輸出の前年比では、東日本大震災で落ち込んだ前年からの反動増が大きく出たため、基調判断を行う際にはその特異性についてあらかじめ留意しておきたい。

### 輸入の増勢が継続する見込み

輸入は、資源価格の高止まりと原発の稼働停止に伴う代替燃料の輸入量の増加を背景に、緩やかな増加基調が継続する見通しである。輸出の回復テンポが緩慢なものに留まり、輸入の増勢が継続する結果、貿易収支が黒字基調に転換するのは今秋以降になると考えている。

図表 5 : OECD 景気先行指数・輸出数量・鉱工業生産指数

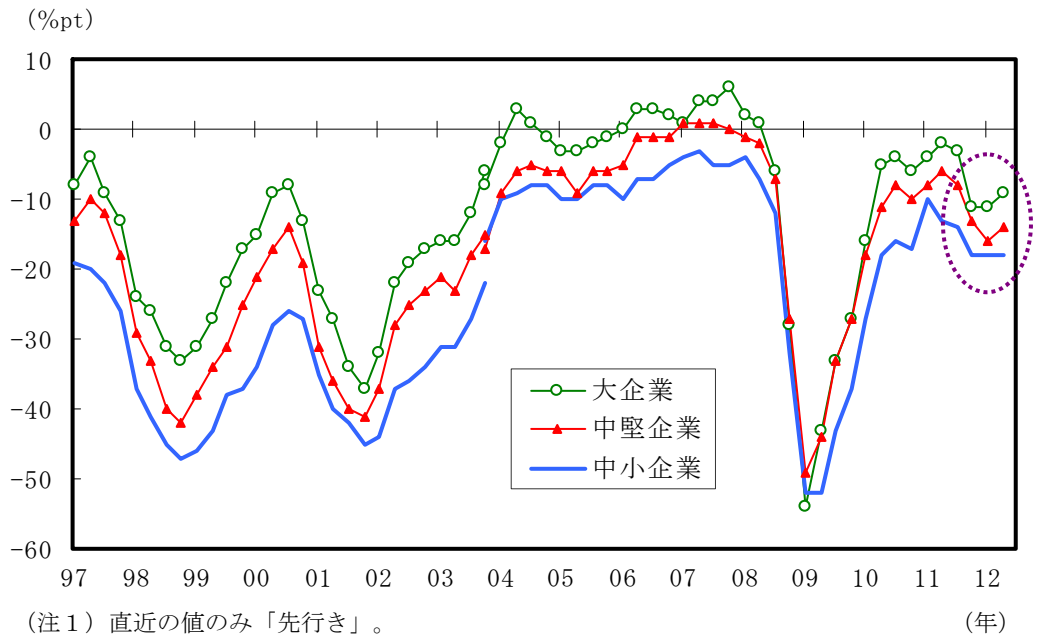


(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) シヤドウは景気後退局面。

(出所) 財務省、経済産業省、OECD統計より大和総研作成

図表 6 : 日銀短観の海外製商品需給判断DI (製造業、最近)



(注1) 直近の値のみ「先行き」。

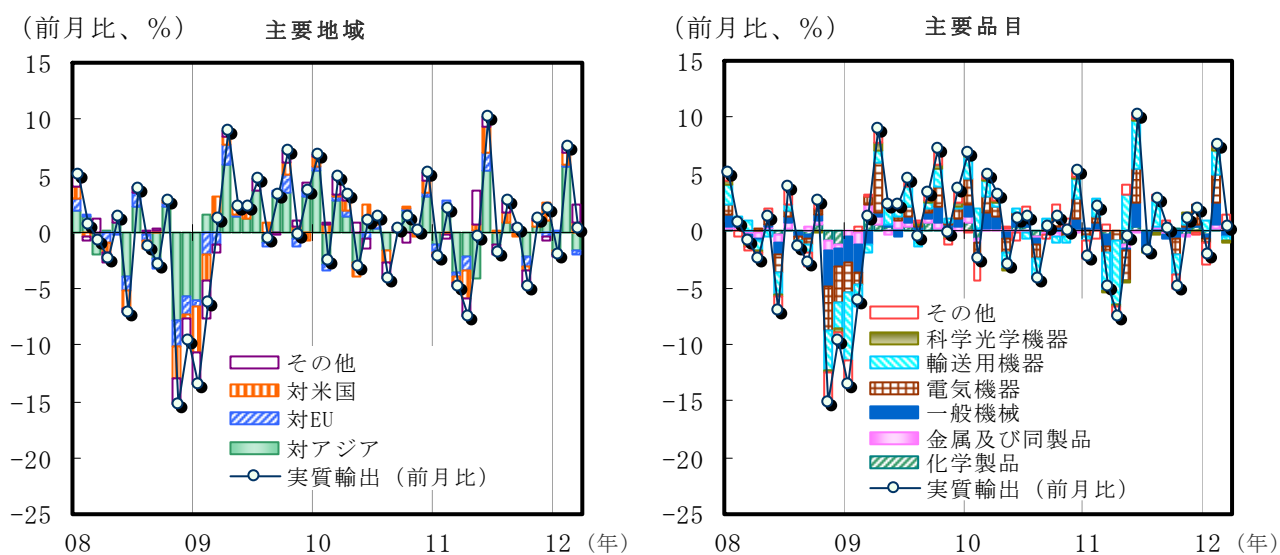
(注2) 2003年以前は旧基準のDI。

(出所) 日本銀行統計より大和総研作成

## 【参考】実質輸出の動向

実質輸出（季節調整値、当社試算）は、前月比+0.3%と2ヶ月連続のプラスとなった。主要国・地域別では、米国向けが前月比+4.7%、EU向けが同▲4.0%、アジア向けが同▲2.9%となった。米国向けは「電気機器」が全体を牽引して堅調な増加した。アジア向けは前月に大きく増加した反動減が「一般機械」、「電気機器」、「輸送用機器」などに出たことで2ヶ月振りのマイナスとなった。EU向けは、財政金融問題に起因する実体経済の軟化を背景に、「輸送用機器」が大きく落ち込み、3ヶ月振りにマイナスへ転じた。

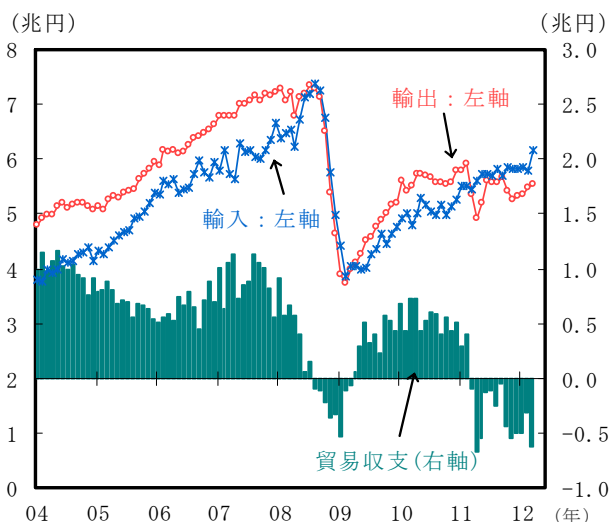
図表7：実質輸出（季節調整済み前月比）の主要項目別の寄与度



**概況**

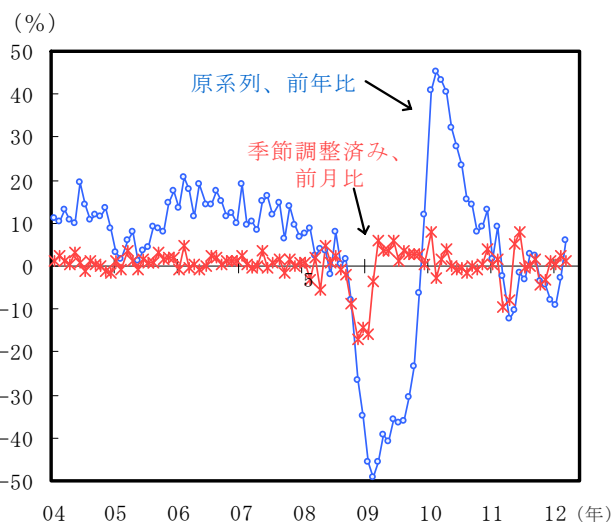
貿易収支の赤字基調が継続

**輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）**

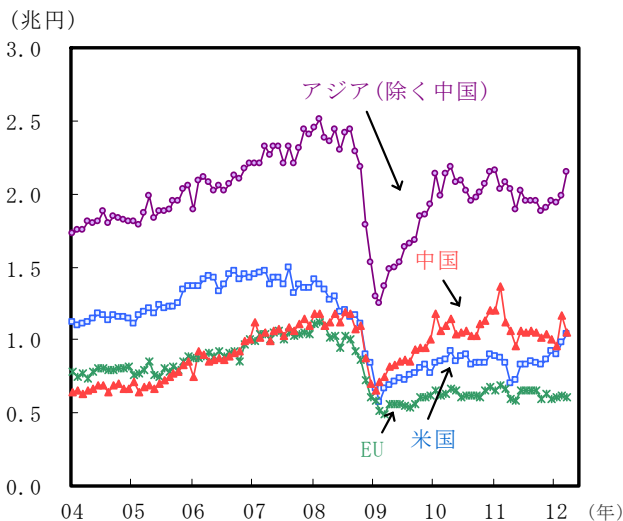


(出所) 財務省統計より大和総研作成

**輸出額の変化率（名目）**

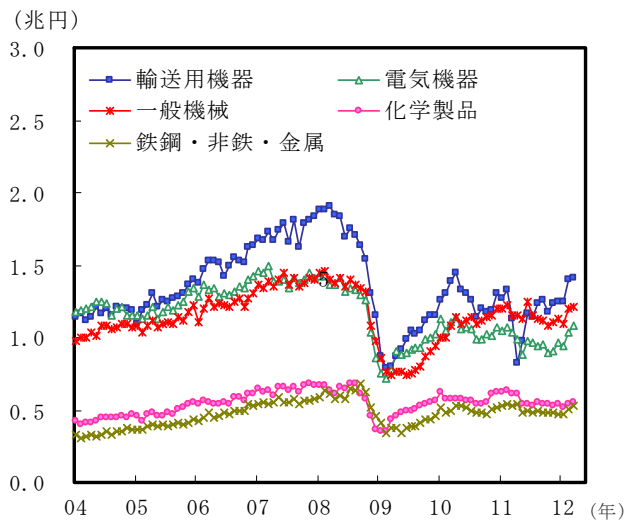


**主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）**

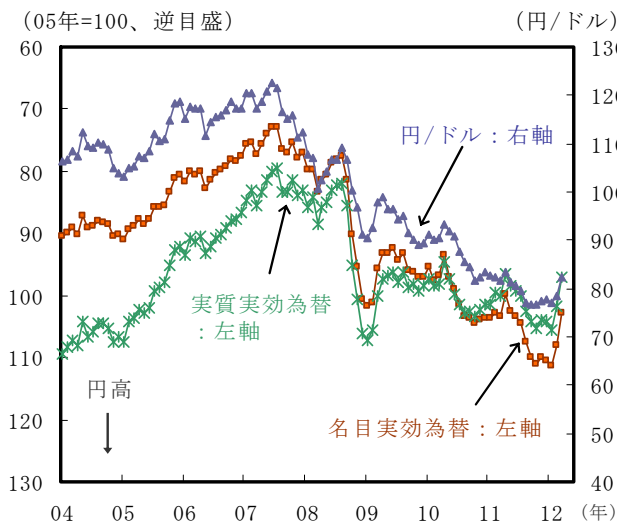


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

**主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）**

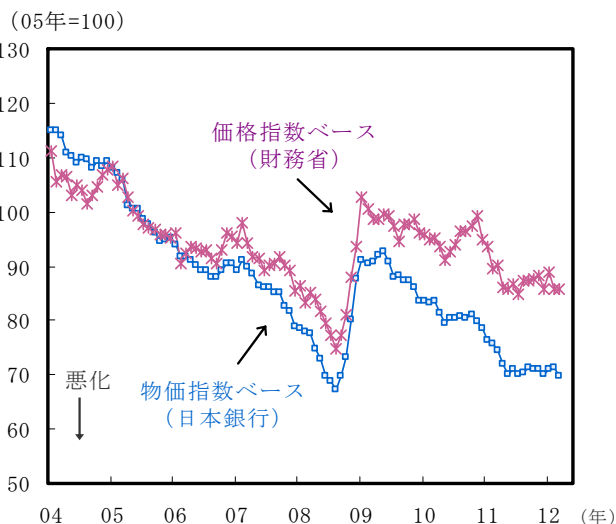


**為替相場**



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

**交易条件**

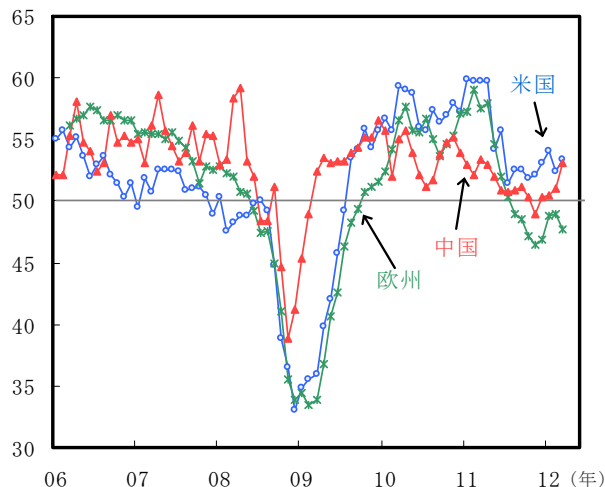
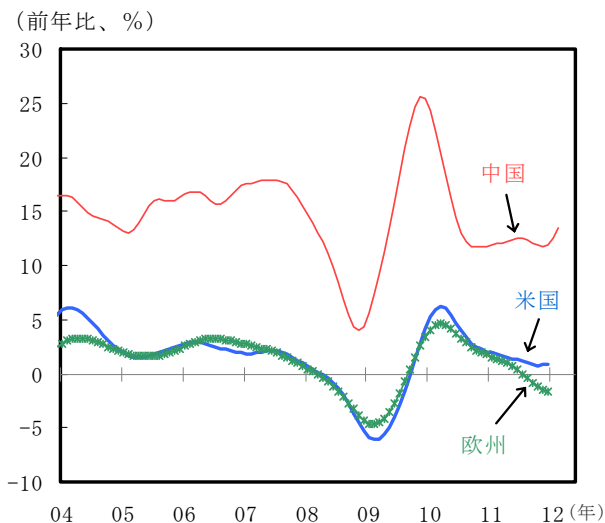


海外環境

欧州の指標が弱い

OECDの景気先行指数（米国・中国・欧州）

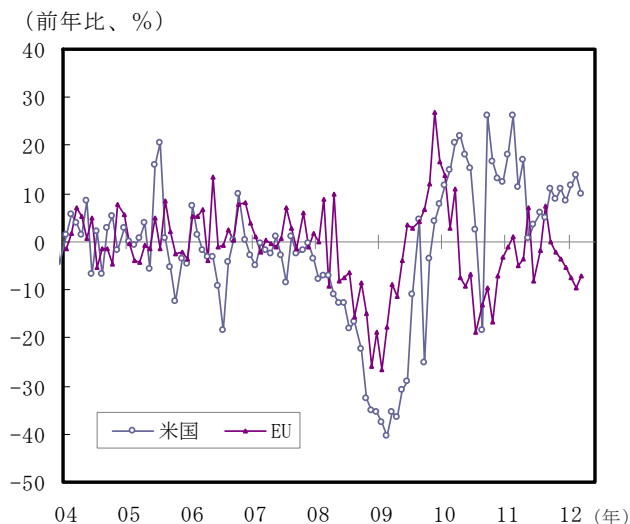
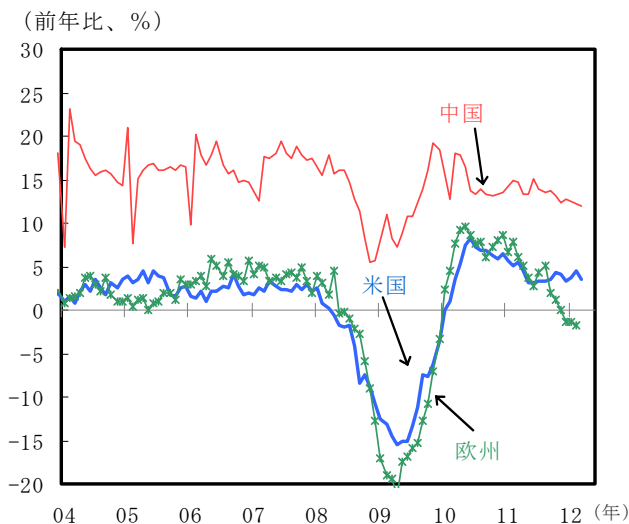
製造業PMI（米国・中国・欧州）



(注) 景気先行指数はトレンドを含むベース。  
(出所) OECD、米ISM、中国物流購買連合会、Markitより大和総研作成

鉱工業生産指数（米国・中国・欧州）

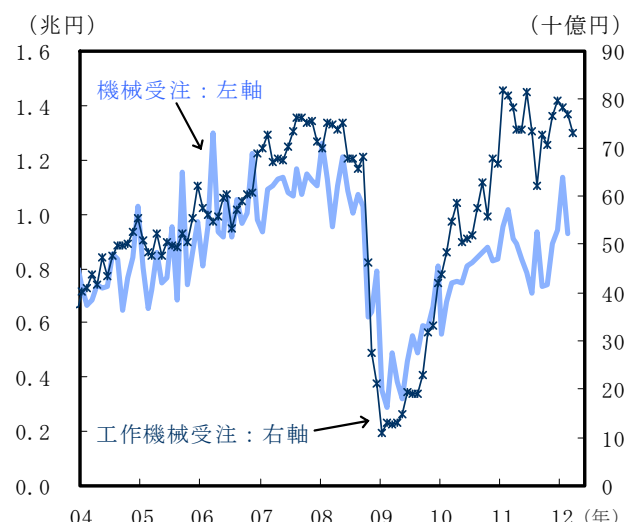
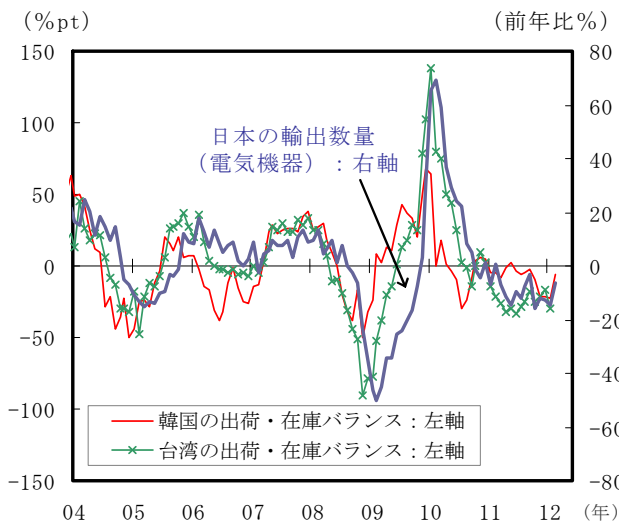
米国と欧州の自動車販売



(出所) 中国国家统计局、Eurostat、FRB、オートデータ社、欧州自動車工業会(ACEA)より大和総研作成

韓国・台湾の出荷・在庫バランス（電子部品）

機械受注と工作機械受注の外需（季節調整値）



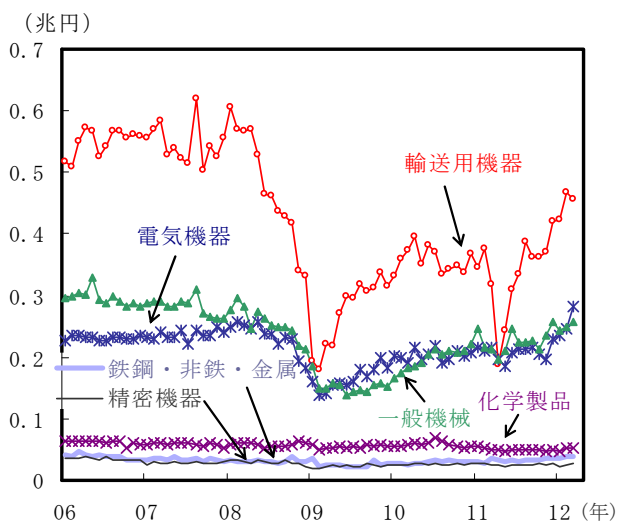
(注) 工作機械受注の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省、内閣府、日本工作機械工業会統計、CEICより大和総研作成



主要地域・国別の実質輸出(季節調整済み)

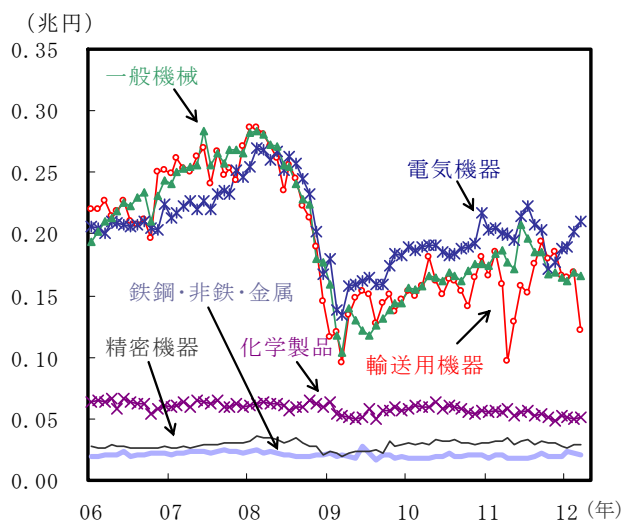
ASEAN向けが大きく伸びる

米国向け

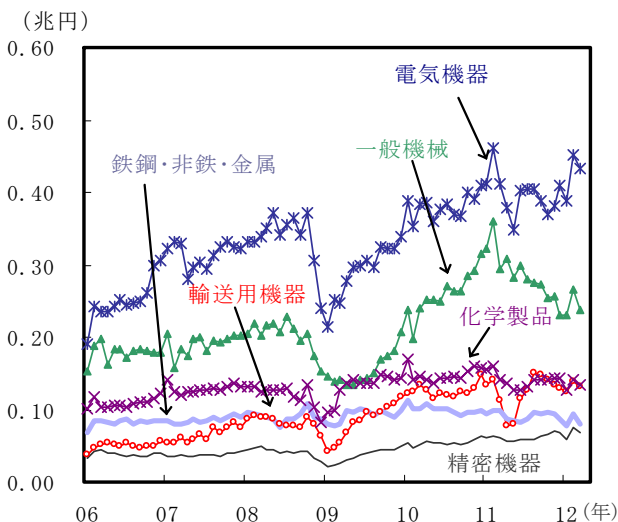


(注) 実質化と季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

EU向け

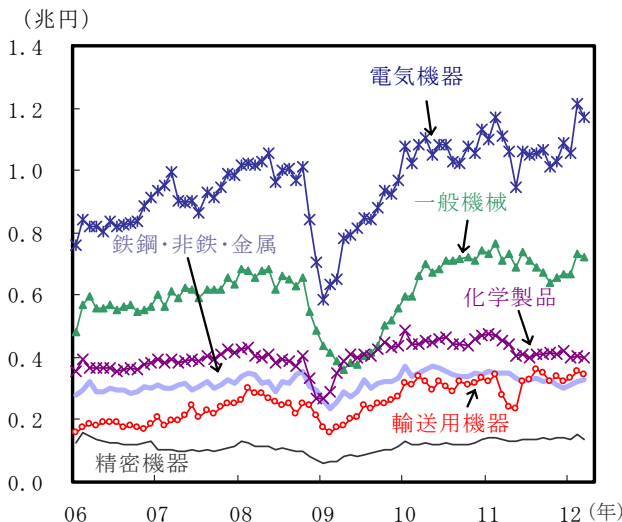


中国向け

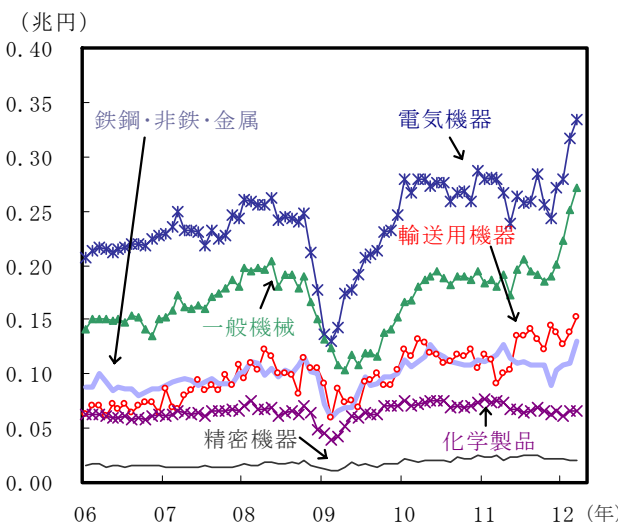


(注) 実質化と季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

アジア向け(中国含む)

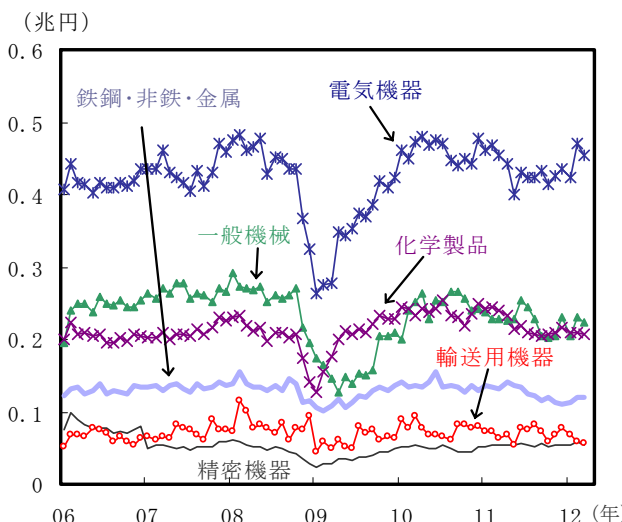


ASEAN向け



(注) 実質化と季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

NIES向け



輸出金額 内訳								
	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.2	▲2.7	5.9	100.0	5.9
食料品	▲29.2	▲9.5	▲14.6	▲26.7	▲14.9	▲12.7	0.5	▲0.1
原料品	▲2.6	7.2	▲5.3	▲1.2	▲2.6	12.7	1.6	0.2
鉱物性燃料	40.3	▲3.2	▲30.8	▲33.9	▲38.7	▲17.5	1.4	▲0.3
化学製品	▲2.7	▲12.6	▲14.0	▲17.5	▲14.9	▲8.3	9.6	▲0.9
原料別製品	▲0.5	▲4.7	▲8.1	▲10.9	▲6.4	▲0.1	13.3	▲0.0
鉄鋼	2.5	▲9.2	▲11.4	▲11.3	▲12.6	▲3.5	5.6	▲0.2
非鉄金属	▲0.9	▲4.3	▲8.2	▲14.8	2.9	2.6	2.1	0.1
金属製品	1.1	0.9	▲4.2	▲3.9	3.7	9.2	1.6	0.1
一般機械	▲5.6	▲4.1	▲6.4	▲8.7	▲1.5	4.5	21.6	1.0
電気機器	▲12.3	▲10.7	▲10.1	▲10.0	▲3.4	6.1	17.9	1.1
半導体等電子部品	▲20.8	▲15.1	▲13.0	▲15.8	▲6.0	▲9.2	4.9	▲0.5
IC	▲21.8	▲12.4	▲7.8	▲12.8	▲5.0	▲5.3	3.3	▲0.2
映像記録・再生機器	▲11.8	▲52.1	▲31.9	0.9	▲1.5	41.3	1.3	0.4
音響・映像機器の部分品	▲27.3	▲20.4	▲23.5	▲17.5	▲12.6	▲5.2	0.6	▲0.0
電気回路等の機器	▲8.1	▲4.1	▲7.2	▲10.8	▲4.6	3.5	2.4	0.1
輸送用機器	▲0.2	3.9	▲4.2	▲1.4	5.4	25.4	23.4	5.0
自動車	6.1	▲0.6	▲4.1	2.2	7.4	44.7	14.0	4.6
自動車の部分品	0.4	3.6	▲5.5	▲4.9	▲1.2	24.2	4.9	1.0
その他	▲1.9	▲5.5	▲5.9	▲11.5	1.7	▲0.5	10.8	▲0.1
科学光学機器	9.2	10.9	▲1.1	▲7.0	4.5	3.5	3.0	0.1

米国向け輸出金額 内訳								
	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲2.3	2.0	3.9	0.7	11.9	23.9	100.0	23.9
食料品	▲5.6	▲8.3	10.8	▲3.2	9.8	10.1	0.5	0.1
原料品	▲5.0	▲6.1	▲4.4	31.6	▲22.0	2.0	0.5	0.0
鉱物性燃料	873.3	830.8	▲34.8	▲25.3	▲35.0	107.4	0.2	0.1
化学製品	▲6.4	▲11.7	▲16.1	▲17.1	▲4.5	4.6	5.4	0.3
原料別製品	▲0.6	13.5	3.5	▲0.3	15.5	6.7	8.3	0.6
鉄鋼	14.0	30.8	14.8	19.1	75.9	▲5.1	2.6	▲0.2
非鉄金属	▲10.6	▲4.7	▲8.2	▲21.3	▲32.3	13.6	0.6	0.1
金属製品	12.2	22.7	12.5	1.9	18.7	24.7	1.9	0.5
一般機械	▲1.0	8.5	13.2	▲4.4	12.4	20.7	23.8	5.1
電気機器	▲8.2	▲8.8	1.7	1.1	7.2	25.5	17.1	4.3
半導体等電子部品	▲14.5	▲11.3	▲4.5	▲15.1	▲9.2	▲4.9	2.0	▲0.1
IC	▲17.1	▲11.8	▲9.9	▲26.9	▲5.4	▲5.3	1.2	▲0.1
映像記録・再生機器	▲19.4	▲58.6	▲34.8	17.9	▲3.4	54.1	2.3	1.0
音響・映像機器の部分品	▲13.4	▲6.1	▲9.7	▲7.9	▲11.0	95.1	0.6	0.4
電気回路等の機器	▲5.1	8.3	2.0	▲3.6	8.9	12.2	1.6	0.2
輸送用機器	▲1.0	3.4	6.8	11.1	20.0	42.5	34.8	12.9
自動車	▲0.8	▲0.4	1.9	14.0	26.9	46.2	23.9	9.3
自動車の部分品	▲7.4	5.3	15.2	▲6.7	0.5	48.4	7.3	3.0
その他	▲6.7	▲6.2	▲11.8	▲11.2	▲2.1	4.4	9.2	0.5
科学光学機器	0.8	▲3.9	▲6.6	▲21.9	▲8.2	12.3	2.3	0.3

EU向け輸出金額 内訳								
	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲2.9	▲4.6	▲12.7	▲7.6	▲10.7	▲9.7	100.0	▲9.7
食料品	▲14.4	1.7	8.3	▲15.1	3.6	▲17.5	0.2	▲0.0
原料品	▲9.2	24.8	▲27.6	4.9	15.4	27.2	1.3	0.3
鉱物性燃料	▲95.9	▲97.6	▲90.7	▲87.2	▲97.3	▲28.1	0.5	▲0.2
化学製品	▲6.2	▲11.8	▲11.7	▲13.5	▲16.5	▲7.2	9.2	▲0.6
原料別製品	0.6	▲2.0	▲6.0	1.9	▲1.8	▲3.3	8.6	▲0.3
鉄鋼	▲8.3	▲22.0	▲31.2	▲13.3	▲40.4	▲38.6	1.0	▲0.6
非鉄金属	▲8.0	15.7	43.7	126.9	174.9	139.2	1.7	0.9
金属製品	▲1.6	▲0.9	▲13.1	▲14.6	4.1	▲9.5	1.7	▲0.2
一般機械	▲4.4	▲5.8	▲9.0	▲11.2	▲11.0	▲11.2	27.0	▲3.1
電気機器	▲15.8	▲14.9	▲20.0	▲13.8	▲9.0	1.7	21.0	0.3
半導体等電子部品	▲33.8	▲24.6	▲29.7	▲30.2	▲22.7	▲38.3	2.7	▲1.5
IC	▲18.2	▲2.5	▲7.7	▲19.4	▲16.0	▲8.8	1.5	▲0.1
映像記録・再生機器	▲30.1	▲53.9	▲51.9	▲19.6	▲21.7	16.8	2.6	0.3
音響・映像機器の部分品	▲52.1	▲32.8	▲35.1	▲20.3	▲22.3	▲4.6	0.6	▲0.0
電気回路等の機器	▲7.2	▲11.9	▲10.7	▲16.6	▲18.0	▲5.6	1.7	▲0.1
輸送用機器	21.1	5.9	▲14.6	▲9.2	▲12.6	▲23.9	18.0	▲5.1
自動車	25.1	▲13.7	▲20.1	▲29.7	▲31.0	▲26.2	8.4	▲2.7
自動車の部分品	5.4	4.7	2.3	2.6	▲0.2	5.7	6.1	0.3
その他	▲4.6	4.9	▲6.0	11.9	▲1.9	▲6.6	14.3	▲0.9
科学光学機器	▲1.2	3.1	▲11.5	▲15.8	▲7.8	▲6.1	4.0	▲0.2

アジア向け輸出金額 内訳								
	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲6.8	▲8.1	▲11.7	▲13.7	▲6.6	0.5	100.0	0.5
食料品	▲33.2	▲7.9	▲19.6	▲30.2	▲22.7	▲16.8	0.7	▲0.1
原料品	▲2.3	4.9	▲1.1	▲4.8	▲0.6	14.2	2.5	0.3
鉱物性燃料	20.3	29.9	▲34.2	▲33.9	▲36.7	▲13.1	2.0	▲0.3
化学製品	▲1.6	▲13.0	▲15.3	▲19.6	▲16.5	▲10.6	13.1	▲1.6
原料別製品	▲2.2	▲9.2	▲13.9	▲15.9	▲10.9	▲6.0	16.3	▲1.1
鉄鋼	▲1.5	▲15.2	▲18.8	▲16.6	▲16.6	▲10.3	7.3	▲0.8
非鉄金属	1.3	▲1.7	▲11.8	▲21.2	▲1.0	▲3.9	3.2	▲0.1
金属製品	▲0.4	▲5.9	▲8.3	▲5.3	▲3.0	8.7	1.7	0.1
一般機械	▲13.5	▲10.5	▲12.9	▲12.9	▲6.1	1.9	22.3	0.4
電気機器	▲12.7	▲10.2	▲10.9	▲11.6	▲4.1	2.5	21.2	0.5
半導体等電子部品	▲20.3	▲14.3	▲12.0	▲14.6	▲4.3	▲6.6	7.7	▲0.6
I C	▲22.3	▲12.9	▲7.6	▲11.4	▲4.3	▲5.0	5.4	▲0.3
映像記録・再生機器	14.7	▲44.3	▲23.2	1.1	15.5	53.4	1.0	0.4
音響・映像機器の部分品	▲14.0	▲18.0	▲22.2	▲17.5	▲7.0	5.3	0.8	0.0
電気回路等の機器	▲9.0	▲4.6	▲7.6	▲9.8	▲5.0	2.0	3.3	0.1
輸送用機器	▲0.6	▲0.6	▲10.5	▲5.3	▲1.3	23.2	9.5	1.8
自動車	18.3	8.0	▲10.7	▲1.2	2.1	46.6	4.6	1.5
自動車の部分品	0.7	1.3	▲17.4	▲9.3	▲5.7	18.2	4.0	0.6
その他	▲3.5	▲6.2	▲1.2	▲10.9	7.8	4.4	12.4	0.5
科学光学機器	14.0	13.6	1.7	▲6.0	8.0	2.6	3.5	0.1

中国向け輸出金額 内訳								
	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲8.2	▲7.9	▲16.3	▲20.2	▲14.0	▲5.9	100.0	▲5.9
食料品	▲74.5	▲35.8	▲32.3	7.3	▲25.7	▲28.0	0.2	▲0.1
原料品	▲1.1	2.9	▲6.7	▲14.4	▲1.9	8.8	3.8	0.3
鉱物性燃料	11.0	48.7	▲68.6	▲23.4	▲27.8	▲36.0	0.8	▲0.4
化学製品	▲3.2	▲10.8	▲13.0	▲23.0	▲16.1	▲5.9	13.4	▲0.8
原料別製品	▲1.4	▲3.2	▲15.2	▲21.4	▲9.5	▲14.8	13.3	▲2.2
鉄鋼	▲5.9	▲13.4	▲17.7	▲25.9	▲15.7	▲21.4	4.6	▲1.2
非鉄金属	6.0	21.7	▲14.3	▲18.9	8.9	▲19.2	3.0	▲0.7
金属製品	1.4	▲4.8	▲13.3	▲17.0	▲14.2	▲2.5	1.8	▲0.0
一般機械	▲13.4	▲14.1	▲28.4	▲31.0	▲28.0	▲18.1	23.4	▲4.9
電気機器	▲14.6	▲9.8	▲7.8	▲13.3	▲9.3	1.8	23.2	0.4
半導体等電子部品	▲21.8	▲6.6	8.0	▲3.4	0.4	▲2.2	8.0	▲0.2
I C	▲25.1	▲6.7	14.9	4.3	▲0.7	0.9	5.7	0.0
映像記録・再生機器	29.1	▲52.9	▲15.2	▲2.7	37.9	63.5	1.5	0.6
音響・映像機器の部分品	▲1.4	▲14.7	▲17.3	▲29.9	▲25.9	▲5.8	0.9	▲0.1
電気回路等の機器	▲8.7	▲2.9	▲14.1	▲16.1	▲9.6	0.4	3.9	0.0
輸送用機器	10.7	▲2.5	▲19.0	▲13.5	▲5.0	16.9	10.6	1.4
自動車	13.9	▲8.5	▲23.4	▲17.0	▲8.2	22.8	4.8	0.8
自動車の部分品	6.5	3.2	▲16.2	▲8.6	▲7.8	14.0	5.5	0.6
その他	▲12.7	▲4.1	▲1.1	▲13.8	▲0.8	3.4	11.3	0.4
科学光学機器	21.3	18.1	7.5	▲8.0	16.7	9.8	4.8	0.4

(出所) 財務省統計より大和総研作成